

英語史から見る今後の英語の姿

英語班：川崎 友梨乃 木原 いずみ 中村 凜

1. はじめに

私たちは、ポーランドの眼科医が考えたエスペラント語（人工世界共通語）についての記述を読んで、現在世界共通言語だと認識されている英語の今後について興味を持ち、研究した。

2. 研究方法

- (1) 英語の歴史を古英語期・中英語期・近代英語期にわけて調べ、英語が今日までに世界で使われるようになった要因を推測する。
- (2) その要因をふまえ、これからの英語の広まりを推測する。

3. 研究内容

(1) 古英語期

他民族による圧迫と人口の増加で土地・農地不足になったゲルマン人が西方に大移動し、英国にも侵攻してきた。ゲルマン人が話していた西ゲルマン言語が英国に広まり古英語の起源となった。

(2) 中英語期

① ノルマンコンクエストは、ノルマン人がサクソン人の領地であった英国に侵攻したことに始まる。英国に侵攻したノルマン人は支配階級となり、フランス語を話した。被支配階級のサクソン人は、古英語を話した。そして、古英語とフランス語という二重英語環境が出来上がり、フランス語の語彙が流入し、同義の単語が増加した。

② 百年戦争は、フランスの王室とイギリスの王室がフランスの王位継承権をめぐる争いに始まる。結果はフランスの勝利に終わり、イギリス国内で敵性語であるフランス語ではなく英語こそが自国語であるという認識が高まった。そして英語が教育に使われるようになり、公用語になった。

(3) 近代英語期

印刷技術が発達し、文学が発展した。特に活躍したのがシェイクスピアである。シェイクスピアは、劇作家や詩人として数々の造語を生み出した。その造語は今でも多く使われる。そして、娯楽の劇などを通して今までより多くの人々に言語が伝わるようになった。

4. 推測

- (1) ゲルマン民族大移動から、人口

- (2) ノルマンコンクエスト・百年戦争から、軍事力・経済力
- (3) シェイクスピアや文学の発達などの娯楽の広まりから、映画の興行収入

この三つの要因が言語の広まりの大きな要因だと考えた。そして、この要因に当てはまる英語の存在を脅かす言語はあるのかについて考え、(1)～(3)の各国のランキングを調査した。

5. 結果

- (1)人口：第一言語として話す人口が多い言語
 - 1位 中国語(10億5100万人)
 - 2位 英語(8億4000万人)：第二言語として話す人口が多い言語
 - 1位 英語(5億1000万人)
 - 2位 中国語(1億7800万人)
- (2)軍事力：軍人数、兵器の装備、予算額など50以上の指標から総合的に判断(2017)
 - 1位 アメリカ経済力：GDP(国内総生産)を指標(1990～2017)
 - 1位 アメリカ
- (3)映画の興行収入;(2018)
 - 1位 アバター(アメリカ×イギリス)
 - 2位 タイタニック(アメリカ)
 - 3位 アベンジャーズ(アメリカ)
 - 4位 ハリーポッター(アメリカ)

この結果から、英語の存在を脅かす言語はない。そして、英語は現在もこの三つの要因において世界でも上位に位置しているため、今後も英語は世界共通語として話される。

6. 結果をふまえての考察

英語の広まりによって、存在を脅かされる言語が生まれるのではないのか。また、その言語の背景にある文化の崩壊を招き多くの言語を支配してしまうかもしれない。そのため、私たちはほかの言語の多様性を認め合わなければいけない。ほかの言語の存在を尊重し、理解するということはその国のアイデンティティを尊重することに等しく、他民族の言語に対する正当な評価の確立が必要になる。

7. 参考文献並びに参考 WEB ページ

global note <https://www.globalnote.jp/>

映画.com <https://eiga.com/>

英語史 <http://migo0110.blog.jp/archives/7115116.html>

寺澤 盾 「英語の未来」 朝日新聞コラム